

要件定義技法ガイド

別紙：要件定義計画のお客さま説明用補足コンテンツ

第1.10版

2018年08月29日



この作品は [クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) の下に提供されています。

要件定義フレームワーク©2018 TIS INC. クリエイティブ・コモンズ・ライセンス(表示-継承 4.0 国際)

0. はじめに

0. はじめに

■ 本資料の概要

本資料は、以下のテーマごとに要件定義の基本的な考え方や原則を解説したものです。これらは、お客様と当社の協働で不透明性の高い要件定義工程を成功させるため、共有すべき前提知識です。要件定義工程に参加される前に、本内容をご理解頂きますようお願い致します。

#	テーマ名	テーマ概要
1	要件定義工程の位置付けと重要性	システム開発工程全体における要件定義工程の位置付けおよび要件品質確保の視点から要件定義工程の重要性を解説する。
2	業務要件定義の必要性	要件定義工程における業務要件定義の位置付けと明らかにすべき事項から、業務要件定義の必要性を解説する。
3	要件定義工程のお客様役割の重要性	要件定義工程における意思決定の重要性から、お客様役割の重要性を解説する。

1. 要件定義工程の位置付けと重要性

1. 要件定義工程の位置付けと重要性

■ 要件定義の位置付け（1 / 2）

**要件定義では、ビジネス目的・目標を達成する『手段』としての業務・システムを決定し、
後続のシステム開発工程を通して実現すべきことを明らかにします。**

業務要件定義では

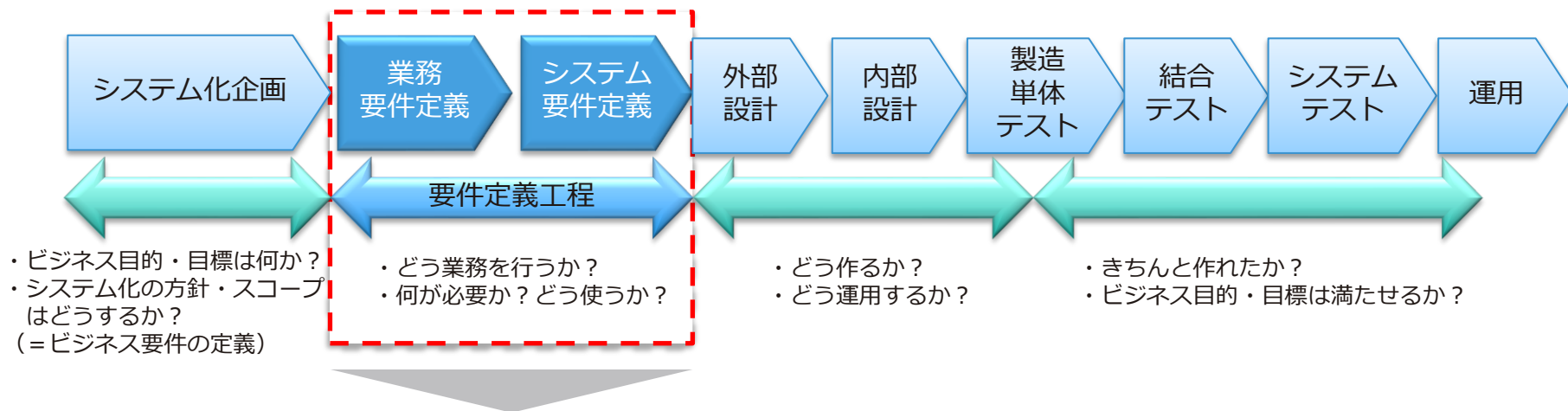
ビジネス目的・目標を達成するために、
解決すべき業務課題、実現すべき業務を定義する。

システム要件定義では

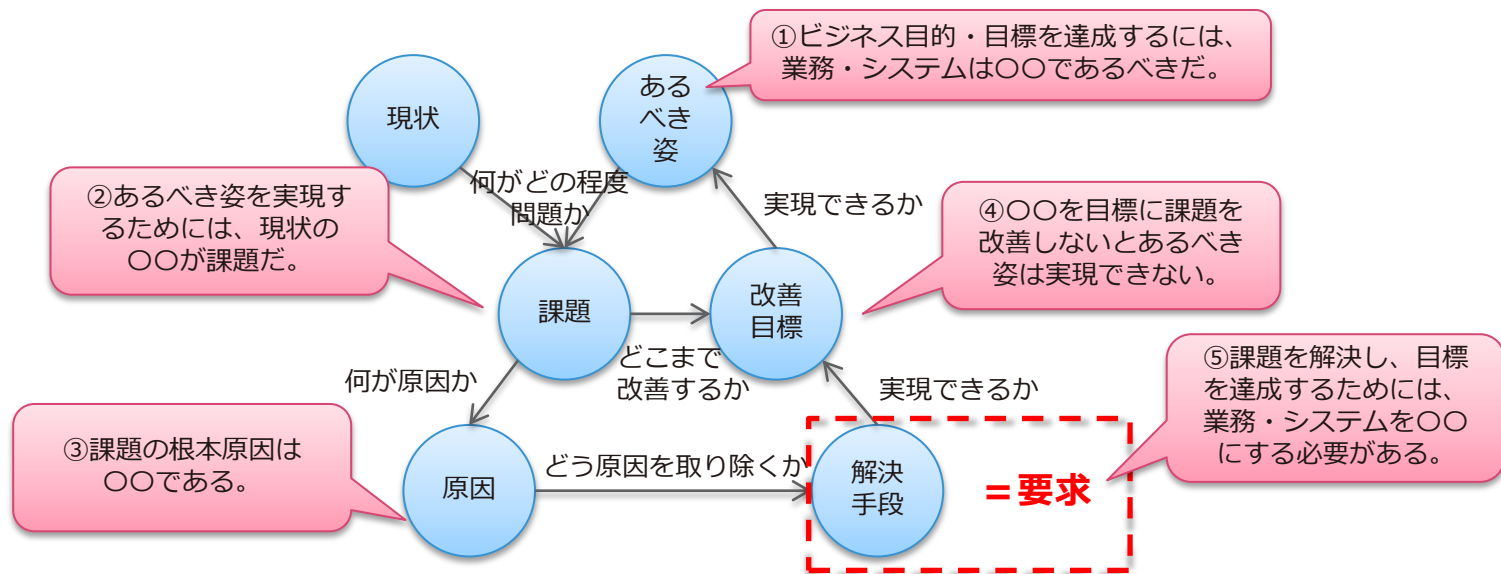
実現すべき業務のために、解決すべきシステム課題、
実現すべきシステムを定義する。

1. 要件定義工程の位置付けと重要性

■ 要件定義の位置付け（2 / 2）



要求抽出の考え方



1. 要件定義工程の位置付けと重要性

■ 要件定義工程の重要性

要件の品質で、お客様のビジネスや業務に対するシステム化の効果が決まります。

⇨ 要件定義工程での要件品質確保は、プロジェクトの重要成功要因。

理由 1

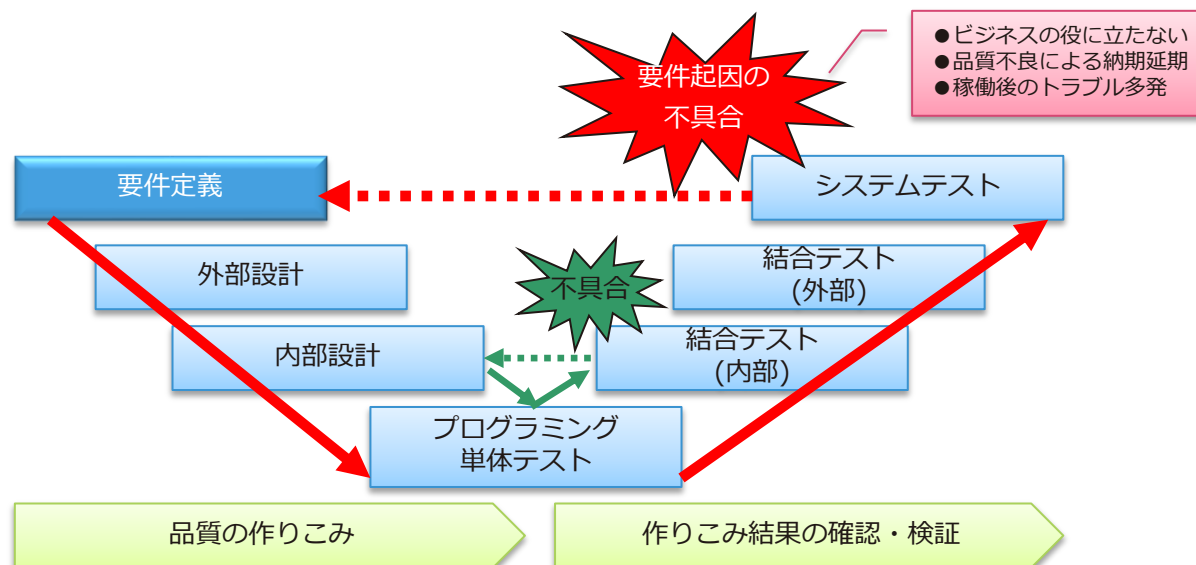
要件の漏れ、誤りなどに起因した不具合は、開発終盤まで発覚しない！

要件は開発終盤のシステムテスト以降で検証されるため、要件起因の不具合は手戻りコストが大きい。

理由 2

工期遅延・コスト増大の多くが、要件定義工程に起因して発生している。

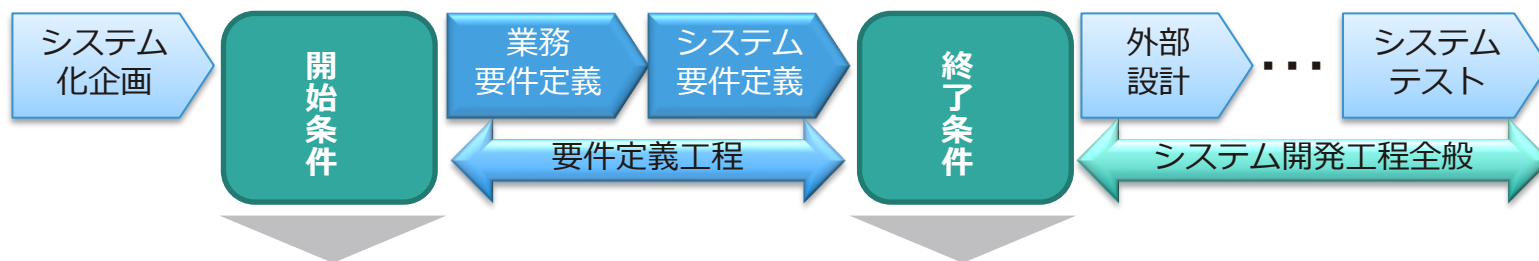
JUAS『ソフトウェアメトリクス調査2016』では工期遅延理由の50%が要件定義工程が不十分との調査結果もある。



1. 要件定義工程の位置付けと重要性

■ 要件定義工程の開始条件・終了条件

要件定義の開始条件と終了条件が、要件の品質を担保する適切な要件定義の実践に導きます。



主な開始条件

- ビジネス目的・目標、システム化方針が明確であること。
- 要件定義計画の実現性をお客様と当社で確認していること。
- 要件を検討・決定が可能な体制であること。
- 要件定義のインプット資料が整備できていること。

主な終了条件

- 次工程以降の計画・準備のインプットとして、適切な範囲・内容・粒度の要件定義成果物(要件内容)であること。
- 要件品質をお客様と当社で確認していること。
- 全ての要件が合意、承認されていること。

条件軽視の弊害(例)

- **ビジネス目的・目標が不明確なまま要件定義を開始する。**
★弊害例：ビジネス目的・目標の達成に必要な要件が漏れる。
結果、**ビジネスに貢献できない、使えないシステムになる。**
- **成果物の品質確認を十分に実施せずに、次工程を開始する。**
★弊害例：次工程以降で要件間の不整合(矛盾)が発覚する。
結果、作業手戻りにより**ビジネスのスケジュールに間に合わない。**

1. 要件定義工程の位置付けと重要性

■ 品質の高い要件

定義した要件が以下の条件を満たすことを確認し、要件品質を担保します。

条件1 「要件の特性」を満たしていること。

【主要な「要件の特性」】

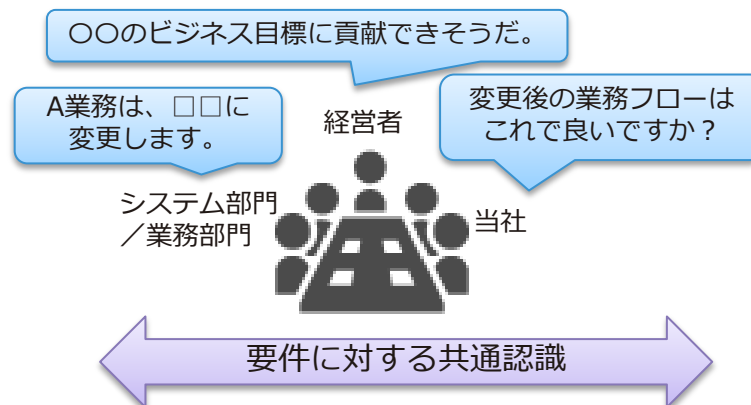
- 実現可能性：記載した要件が実現可能であること。
- 無曖昧性：複数の解釈が成立するような曖昧さがないこと。
- 必要性：要件が必要とされる理由が明確であること。

【補足】その他の「要件の特性」

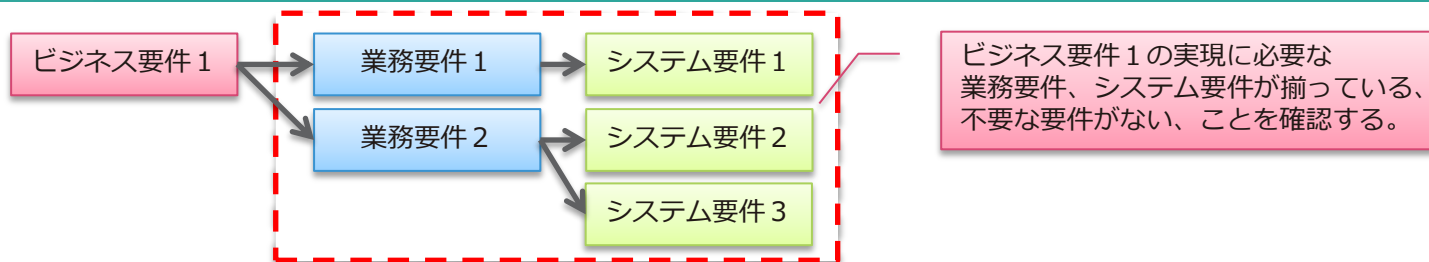
- 単一性 ● 完全性 ● 一貫性 ● 法令遵守
- 独立性 ● 追跡可能性 ● 最新性 ● 検証可能性

[JISA『要求工学知識体系 第1版』P26の表1.4 要求の特性より引用、一部改訂]

条件2 ステークホルダー間で共通認識を持った要件であること。



条件3 ビジネス目的・目標の達成に必要な要件に過不足がないこと。

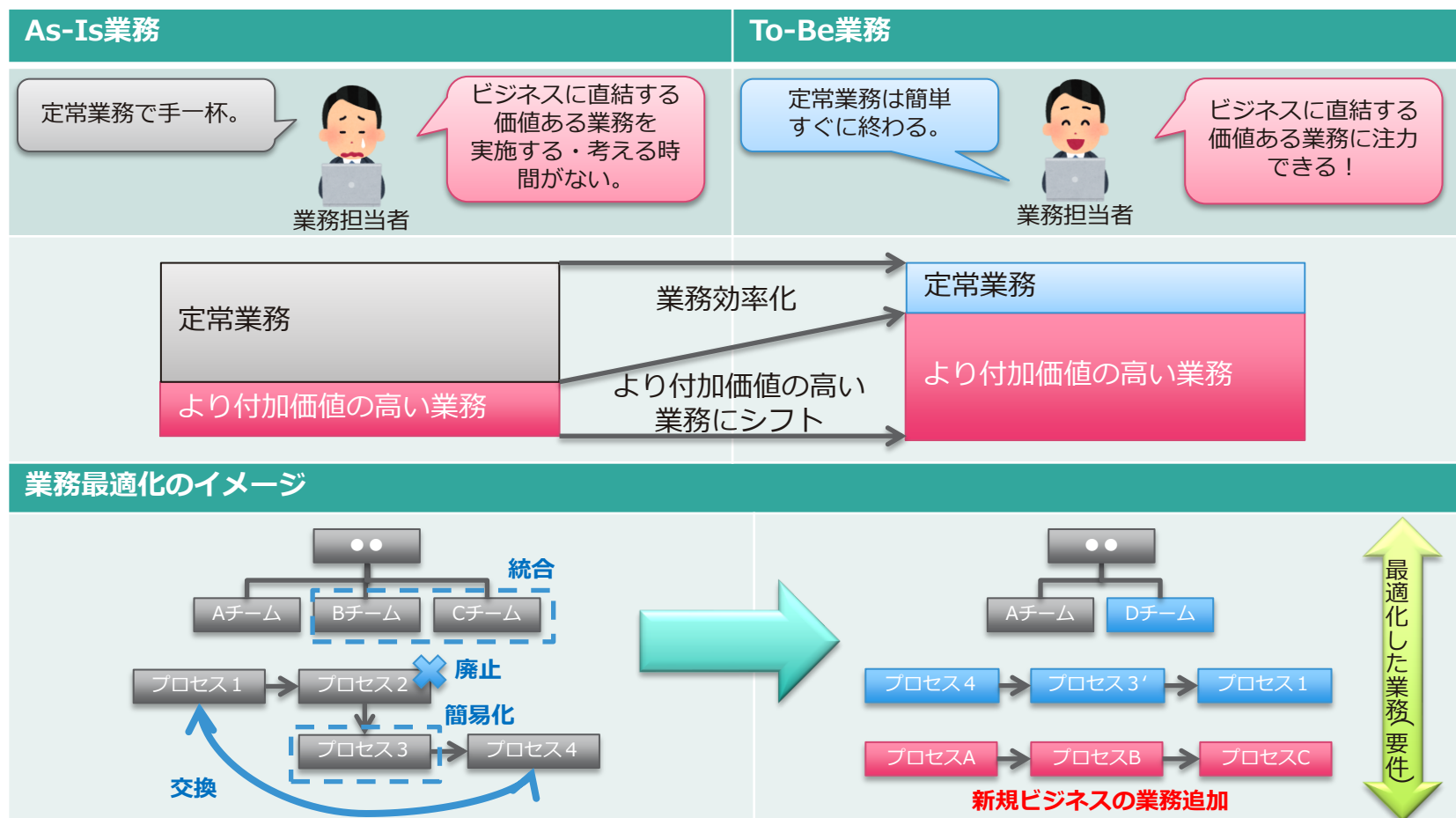


2. 業務要件定義の必要性

2. 業務要件定義の必要性

■ ビジネス視点から見た業務要件定義

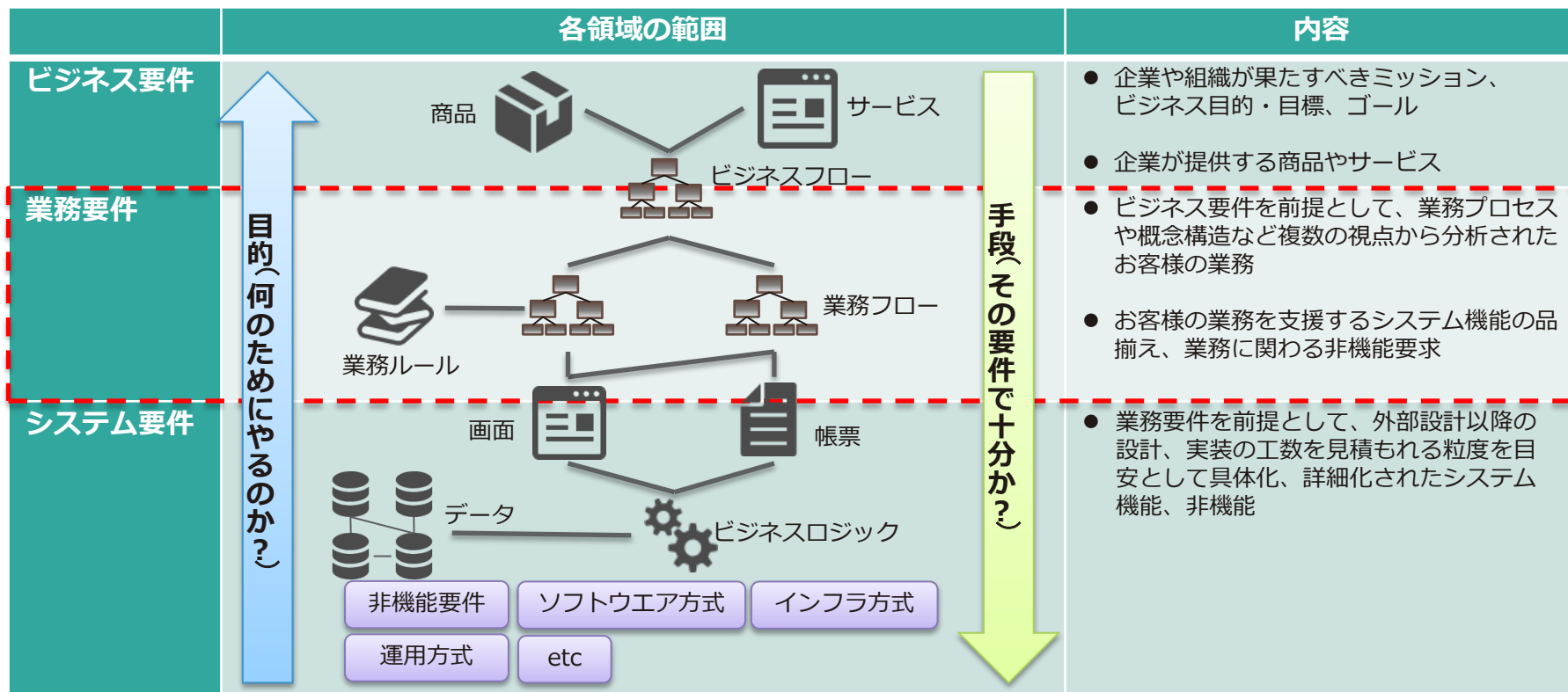
- ビジネス目的・目標の達成に必要な業務を明確にします。
- 現行業務のムダや非効率を改善した最適な業務を明確にします。



2. 業務要件定義の必要性

■ システム開発視点から見た業務要件定義

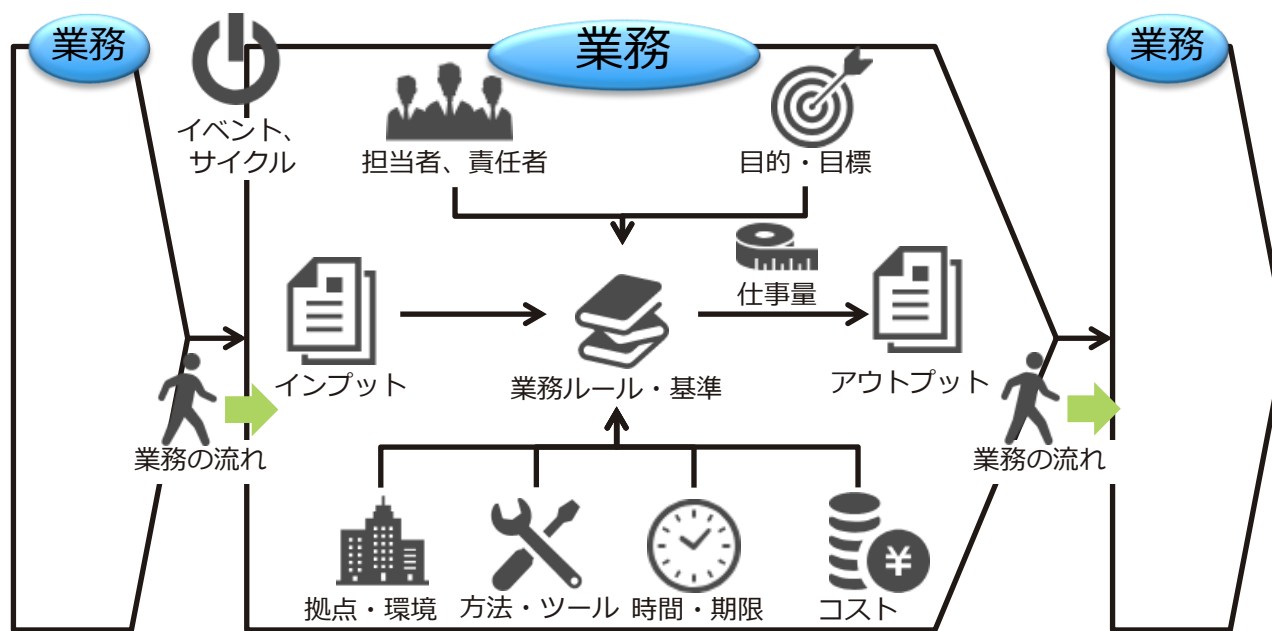
業務要件がビジネスとシステムの橋渡しを担い、ビジネス目的・目標達成に貢献するシステムを実現します。



2. 業務要件定義の必要性

■ 業務要件の可視化

可視化された業務要件がステークホルダー間の認識を合わせ、全体が業務と整合したシステムを実現できます。



業務要件 軽視の弊害 (例)

● 業務要件を定義せずに、システム要件定義を開始する。

★弊害例 1：業務に必要なシステム機能が不足する。

結果、**ビジネスに貢献できない、使えないシステムになる。**

★弊害例 2：業務に不要な利用されないシステム機能を開発する。

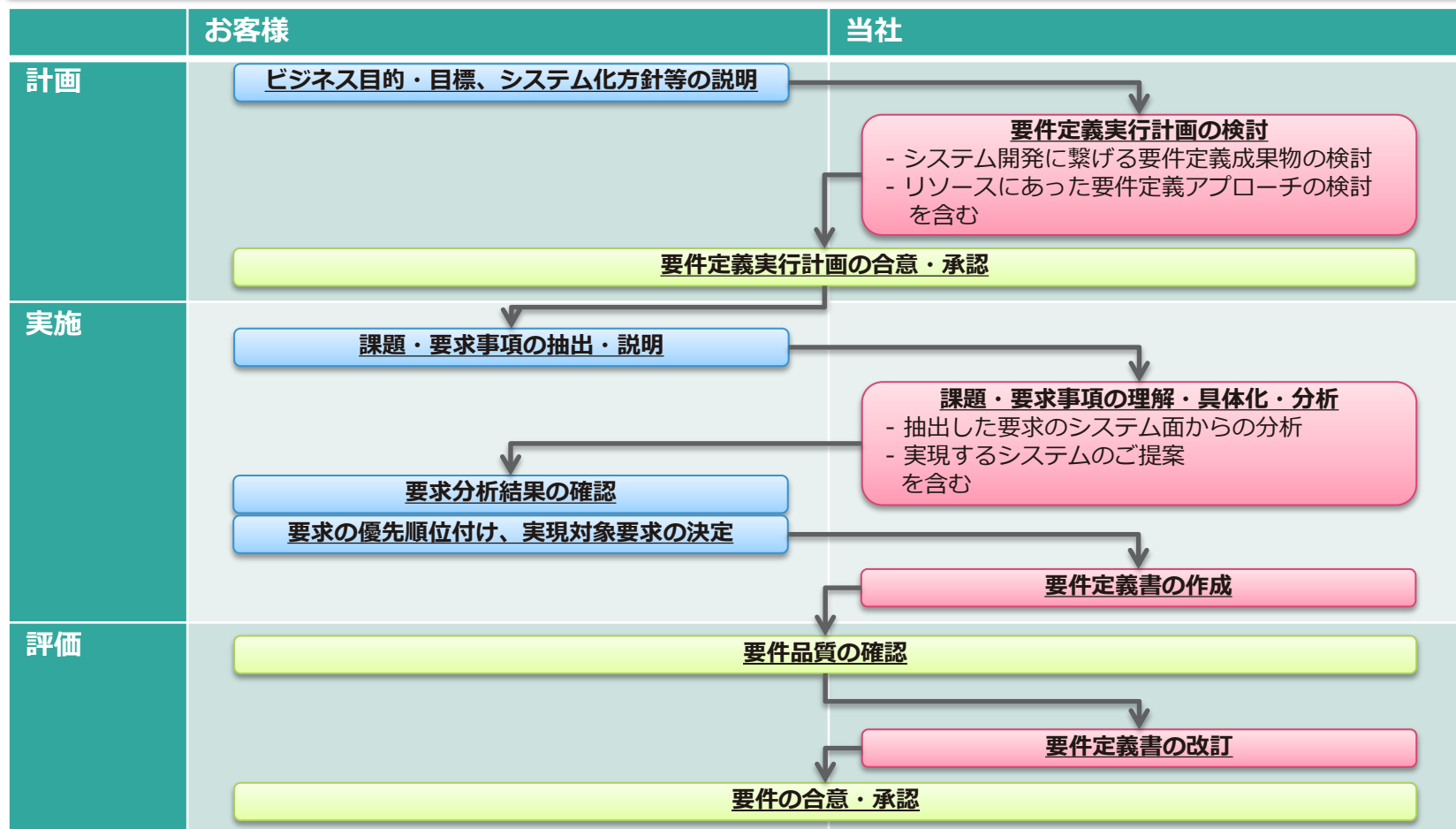
結果、**システムの費用対効果が低下する。**（コストのムダが発生する）

3. 要件定義工程のお客様役割の重要性

3. 要件定義工程のお客様役割の重要性

■ お客様と当社の主要な役割

**ビジネス・業務のプロであるお客様と、システムのプロである当社の協働が、
ビジネス・業務と整合したシステムを実現します。**



3. 要件定義工程のお客様役割の重要性

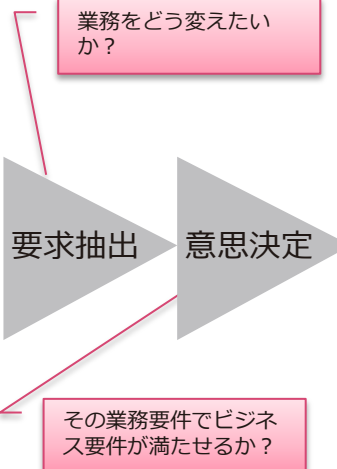
■ お客様役割の重要性

**ビジネス・業務の担い手であるお客様による「要求の抽出」「要件の意思決定」が、
ビジネス・業務と整合した品質の高いシステムの実現に繋がります。**

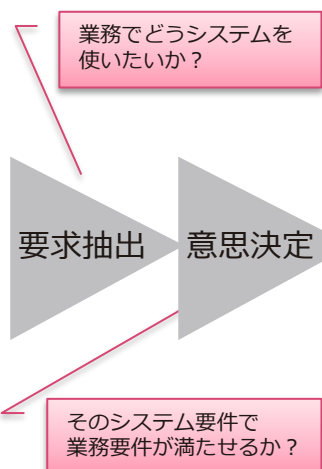
お客様が
担う理由

「漏れ・誤りのない要求の抽出」と「要件に対する意思決定」は、
ビジネス・業務の主体であるお客様にしかできない。

ビジネス要件



業務要件



システム要件



ビジネス・業務を行うお客様だからこそ適切な抽出・決定が可能

3. 要件定義工程のお客様役割の重要性

■ 「要件に対する意思決定」の準備

複数のステークホルダーで意思決定を行うための準備が、限られた期間内での適切な要件決定を実現します。

準備 1

お客様内での合意・承認ルールの明確化

要件を「誰が」「いつ」「どのように」合意・承認するかを明らかにし、そのルールを事前に定義する。

準備 2

適切な要件決定が可能なお客様体制の構築

要件定義に必要なステークホルダーが確実に参画できるよう、業務調整や負荷抑制などの事前調整を行う。

お客様の 関与不足の 弊害(例)

● **お客様内の合意・承認ルールが不明確なまま要件定義を実施する。**

★弊害例：ステークホルダーが要件定義期間内に要件を確定する認識を持たず、次工程以降で要件追加・変更を多発する。
結果、**ビジネスのスケジュールに間に合わない。**

● **お客様の体制不備が未解決のまま要件定義を実施する。**

★弊害例：必要な知識や権限を持つ業務専門家が不在のため「要件が決定できない」、または「不適切な要件を決定」し、次工程以降で要件追加・変更が多発する。
結果、**ビジネスのスケジュールに間に合わない。**

4. まとめ

4. まとめ

#	テーマ名	まとめ
1	要件定義工程の位置付けと重要性	<ul style="list-style-type: none">● 要件定義工程では、実現すべき業務・システムを決定する。● 要件の品質で、ビジネスや業務に対するシステム化の効果が決まる。● 要件定義工程の開始条件と終了条件が、適切な要件定義の実践に導く。● 明確な確認観点で要件品質を担保する。
2	業務要件定義の必要性	<ul style="list-style-type: none">● 「ビジネス目的・目標の達成に必要な業務」と「現行業務の非効率を改善した最適な業務」を明確にする。● 業務要件がビジネスとシステムの橋渡しを担う。● 可視化された業務要件がステークホルダ間の認識を合わせ、全体が業務と整合したシステムを実現できる。
3	要件定義工程のお客様役割の重要性	<ul style="list-style-type: none">● お客様と当社の協働が、ビジネス・業務と整合したシステムを実現する。● お客様による「要求の抽出」「要件の意思決定」が、ビジネス・業務と整合した品質の高いシステムの実現に繋がる。● 要件の意思決定を行う準備が、限られた時間内での要件決定を実現する。（合意・承認ルールの明確化、体制の構築）